

石くり通信

9月号

お参りの流儀

院長 石川 悟

今年はお父の新盆でたくさんの方が、わが家を訪れました。ふだん人がお線香をあげるところをしみじみ見る機会はありませんが、今回は祭壇の脇に控えていたので、お参りの仕方について考えさせられました。

まずお線香の点け方。蠟燭の火で点けますが、炎のどこに線香の先端を持って行くか。ご存じの方も多いでしょうが、蠟燭の炎は外炎と呼ばれる先端および周囲の温度が高く(1400℃程度)なっています。内炎という一番明るい部分(500℃程度)が一見温度が高そうですが、そうではありません。炎心(芯のすぐ近く)は300℃くらいしかないので、ここに線香を持って行って、なかなか点火しない人が実際にいました。

線香を何本上げるか? インターネットで調べると、宗派によって違ふと、本来何本でもいいはず、など色々な情報があふれています。ちなみにうちには真言宗なので、3本が正式らしいですが、小生も含めて、一本だけの人が多いようです。

鐘の鳴らし方も人により様々でした。指先に指揮棒を持つようにして、叩くのが当たり前だと思っていたら、棒の先を真下に向けて叩く(お坊さんもそのようになっていました)のが正式なようです。きつく叩くのか、そっと叩くのかも好みがあるようです。鐘の外側を叩くか、内側を叩くかも人それぞれ。お坊さんは外側と内側を叩き分けていました。余韻を楽しみながら、拝むものだと思っていたら、手でしっかりと音を消している人もありました。真心を込めてお参りしてもらっているのに、冷めた目で観察しているのは、不謹慎と言われそうです。好奇心旺盛な人間もいるものだと、ご容赦を。

車の免許

看護助手

柴田 さち子

車の免許を取って34年間無事故・無違反だったが、先日友人の家に遊びに行った帰りに雨が降り、視界が悪く、ゆっくりバックしていたらゴツンと鈍い音。何が起こったのか自分では分からなかったが、友人と旦那さんの「あー」という声。扉にぶつかったようだが、車の後ろが傷になっただけ。無事だったと、旦那さんが「後ろを見てあげればよかったね。申し訳ない」と。帰り道、初めて事故と修理代の話で頭はパニックだった。帰りは事故を起こさない様に慎重に運転した。帰宅し車屋さんに電話し代車を届けてもらった。車屋さんは落ち込んだ私の姿を見て「奥さん、人を傷つけないで」と言ってくれて、やっと立ち直る事ができた。車も修理が終わって1週間戻ってきた。これからは今まで以上に慎重に運転を。

文字はなかなか難しい

薬剤師 石川 恵

皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は具体的な怪談をご紹介しましたが、文字で恐怖を表現するのは結構難しいなあ。(汗)と実感。

ちなみに二つ目の「心霊写真」。「え?どゆこと?」と思った方もいるかもしれませんが、つまりその女性には幽霊ではなくてそこに実在したということ。今も昔も一番怖いのは人間です(強引な結論)。一つ目は江戸時代に書かれた怪談ですが、番長皿屋敷といひ、お右さんといひ、昔の幽霊は女性が多いですね。個人的見解では、女性の方が過去の感情を引きずる傾向にあるということ、昔は女性の地位が低かったため、「弱いから」と言われて甘く見ていると後で痛い目に遭うぞ」という警告の意味があるような気がします。

もつと住みやすい家づくり

事務 森 絵里子

年と共に歩行が困難になり、今までは気にならなかったちよつとした段差に「つまづいたり、ここに手すりがあったら便利なのに」といったお悩みはありませんか?

介護保険を使うと20万円を限度として自宅の介護リフォーム工事費用の9割が支給される事を最近知りました。玄関やお風呂に手すりを付けたり、滑りにくい床に換えるだけでも歩行は楽になるし転倒予防になります。介護を受ける方だけでなくそのご家族も生活がしやすくなります。そんな介護リフォームに詳しく、安心して任せられる業者がありますので興味のある方はぜひ事務の森まで☆

リフレッシュ

看護師 澤田 彰子

澤田家の夏休みは群馬県の野反湖に二泊三日のキャンプでした。野反湖は群馬、長野、新潟の県境に位置し、二千メートルの山に囲まれ、釣り、高山植物、ハイキングが楽しめます。主人は趣味のフライフィッシングを、私と子どもたちは三壁山(1974m)を登山して楽しんできました。主人曰く野反湖は放流ではない、天然のニジマスが釣れる限られた場所らしく、釣れたと喜んでいました。また、野反湖は「天空の湖」ともいわれるように、標高が1517mあり、日立が30℃の真夏日でも23℃位ですぐし易く、朝夕は17℃と肌寒く、フリースが手放せませんでした。普段は時間に追われた生活を送っていますが、3日間のはんびりとした時間を過ごせて、良いリフレッシュになりました。

バテ気味の時には

事務 久保 直子

残暑がキビシイですね。暑いと、ハイボールとか冷酒が呑みたくなります。そんな時、オスメの肴があります。にしきぎ(錦木)という物で、鯉節・もみ海苔を(ワサビ多めの)ワサビ醤油で和えた簡単おつまみです。暑い時には、たつぷりの薬味(葱・茗荷・大葉・ゴマ等)を細かく切って混ぜます。バテた体に、ワサビと薬味が効いてシャッキリします! お酒にピッタリの肴ですが、アツアツの白飯にのせて食べても美味しいですよ☆

水戸黄門まつり

看護師 高山 早苗

私が住んでいる水戸市では毎年、八月の第一週の金、土日に水戸黄門まつりが開催されます。昭和十年頃水戸商店街では夏に七夕まつり、秋に広告祭が開かれていたことが、戦争中は中断し、終戦後の昭和二十四年に復活したとのことです。昭和三十六年、「水戸黄門、助さん、格さん大暴れ」という映画の撮影の際、月形龍之介が、水戸市役所を水戸黄門の旅姿で訪問したことから、黄門まつりのアイデアがうまれ、同年八月に第一回水戸の七夕黄門まつりが開催されたそうです。その後毎年続き、水戸の夏の風物詩として定着。一九九二年に水戸黄門まつりと名称が変わり、現在は金曜に前夜祭として千波湖畔で花火大会、土曜、日曜に水戸市街地で大名行列や山車や神輿の渡御、水戸黄門パレード等が行われます。今年もまた花火大会が行われ、クライマックスは湖上から吹き上げる花火と、空に打ちあがる花火の饗宴で美しさと迫力にとても感動しました。主人は写真をパチパチ撮っていたのですが、ぼやけてとても花火には見えません。「デジタルカメラうまくとれない」とか「安いカメラだからだめなんだ」とか決して自分の腕のせいにはしない頑固者でした。

新盆

事務長 石川 都

今年のお盆は亡父の新盆でした。七月末にはお盆柵(精霊柵)を設けました。笹のついた竹を両側に立て、段にござを敷き、上部に縄で結界を作り、スギとほおずきを飾りました。上段には先祖代々の位牌および亡父の写真と位牌、下段にはお供物などの他、「早く来てくれる」胡瓜の馬と(荷物)を積んでゆつくりと帰る) 茄子の牛を、割り箸の足で立てました。またこれは初めてでしたが、水の子(蓮の花皿)に角切りの胡瓜と茄子と米も供えました。亡父の好きだったお酒ももちろん揃えました。八月七日のお寺でのお施餓鬼法要と法話に始まり、通常のお盆より一日早い十二日開係の方々など、六十人近い方々がお参りして下さいました。新盆恒例の天井から吊り下げる家紋付大提灯はわが家では飾りませんでした。提灯の和紙を通したほのかな灯りの趣きや、回り提灯の青や赤の模様に移ろう幻想的な風情は、父のいない初めての夏の夜を彩り包んでくれました。